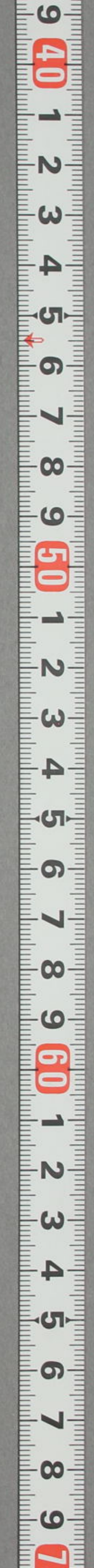


江戸名所方角註解

ル 4  
3230





初めはあらざれば、あや情、雅、其、君、子、を  
あらせし、かつ、つ、り、ん、ま、ぶ、ら、ん、三、島、函、館  
地理の、披、を、務、を、十、の、二、好、ん、と、述、を、を  
蘇、ふ、ま、ま、の、あ、ま、り、あ、や、あ、ま、り、と、ら、ね、を  
う、み、そ、し、文、の、第、十、二、の、志、の、十、二  
方、角、形、地、名、を、よ、く、抱、括、を、を、書、し  
地名の、ふ、ぶ、その、故、事、由、を、海、  
と、そ、お、た、ま、を、し、名、を、そ、れ、江、戸、砂、子

江戸志の、ま、ら、ひ、を、そ、物、は、は、免、た、り、  
し、つ、つ、も、書、を、好、む、の、人、ふ、は、つ、た、れ、  
よ、む、あ、わ、つ、つ、は、お、よ、ろ、と、書、は、れ、  
多、あ、ら、ま、の、い、れ、を、お、お、ひ、ら、れ、を  
そ、ら、ら、ら、ら、か、も、て、海、海、の、あ、ま、  
を、ま、し、ん、あ、ま、書、を、路、を、ま、ま、と、成、  
用、ひ、と、ま、ま、あ、の、は、ま、を、あ、ら、ま、  
あ、政、ら、何、の、ま、ま、な、ま、

関の五士伝

一三六

附言

江戸の地理を志すもの。江戸砂子を始とし。数多流布せられた。童蒙のためを以て見よ。記憶をよむもの。江戸の地名を以て江戸名所方角の之地。名れ著るを摘要して。他の次第に辨へる。語路も又調ひたす。讀人として困倦をなす。かつ開補しやまかす。心もれを臨池の沙汰すもの。関里衝門の

士より。村僧里正の輩。小島より来て。必を此書と  
先くして。學考して。む。い。い。江戸大都會の第一  
を志す。せしものる。れ。よく。圖記を。ふ。ふ。り  
て。此。學。大。江。戸。を。語。る。べ。し。惜。哉。い。い  
ぶ。ま。い。ま。い。一。言。の。注。解。を。あ。そ。も。の。り。い。ん。  
ぶ。て。お。の。地。名。を。知。る。ふ。り。づ。か。さ。い。つ。い。ん。  
い。何。の。年。が。り。ひ。い。い。ん。が。い。い。何。ふ。内。と  
か。い。名。付。た。い。ん。ち。ぶ。わ。い。た。い。い。い。い。い。

と。い。故。ふ。今。予。の。因。陋。あ。る。を。忘。ま。く。具。聞。の  
及。ふ。知。を。注。せ。り。元。より。後。見。の。謬。を。多。か。る。と  
お。も。れ。を。識。者。の。鉄。正。い。い。ん。事。を。い。い。い。い。い。  
い。い。い。

此。江。戸。名。所。方。角。い。い。い。い。い。何。の。年。何。人。の  
著作。と。い。い。い。い。い。傳。へ。い。い。い。文中。飛。多。山。此  
碑。と。桃。園。を。載。る。ふ。り。を。大。や。う。元。文  
の。頃。の。撰。る。ま。い。い。

原文少く地理の次序を失ひしと存ゆる  
し河津。或はふをその後ま河津。又ハ  
無善のさし。地名のさふへうつをたきん  
べりし。さかう論をたにおふをだ。姑く撰者  
の意ふちのさぬ。

壬午蒲節前一日

三島政行後

### 江戸名所方角註解

江戸ハ往古武蔵野の内なり。廣漠の野あり。事ハ諸記紀行  
の類あり。右大将頼朝卿天下を治えり。江戸太郎  
重長が所領あり。邸宅あり。東鑑治承四年九月廿八日重長を  
めさし。條不。武蔵國小村。當時汝をて棟梁たり。専ら特  
めさし。又同キ十月五日の條不。武蔵國諸雜事等在廳官人并諸郡司等  
小沙汰あり。江戸太郎重長小御付ら。裁たり。此頃ハ城郭あり。古書小をい。選の後長禄年  
中。扇谷上杉修理大夫定政の家人。太田備中守持資入道道灌。江戸城を築  
キ。事ハ。落穂集等あり。載たり。上杉家此城の主。事九七十年の  
後。大永四年定政の子修理大夫朝貞。北條九京大夫氏綱が為小戦ひ。太田美  
より。小田原北條家の持塔あり。又中頃。近御の寺社ハ三樂。出せ。太田美  
濃守三樂。此城を築。任せ。再び小田原の持城  
あり。天正十八年まで。前後六十餘年に及び。やうな家人ふ。置  
置。兵家小。搔上塔を。梅。假。







セリ地あり。たゞちに彼が氏をりて深川と名付し。猿江泉養寺の  
記録不見えり。此深川と云々。始ハわづ。あま村居あり。後町名  
改められ。又いつの改り。霊巖寺 道本山東海院と号し。浄  
一里四方の惣名とあれ。土宗十八檀林の一あり。寺領  
五十石。此寺始ハ霊巖寺とあり。明暦三年一移り  
南本所 此地名古  
書六本あり

所見あり。正保の改り。南北本所村とあり。其の後南北本所  
町と改められ。近きハ亀戸中之郷小名木川邊とあり。地名と  
まき

小名木川 古本地図ハハうらぐらぐらあり。又鯉沼川とあり  
たり。此川ハ行徳の塩船江戸へ通路のたえ。

御入國の後社ふく堀とあり。中。事蹟合考小載あり。五百羅漢 本所五ツ目渡江南  
萬福寺末あり。當寺ハ沙門松雲の草創あり。象先和尚中興を  
元祿八年五百羅漢成就して。天恩山羅漢寺と号し。法ゆるり。

其の方日比谷御門 日比谷村あり。地あり。小田原役帳小  
その名とあり。云々。小田原役帳小

大胡が知行江戸比谷本郷。六拾七貫七百八拾文と載り。是あり。又  
落穂集追加あり。比谷町とあり。種々の賣買物あり。繁昌と  
後小所曲輪内とあり。今の鍛冶橋あり。因ふ云。鍛  
冶と字様の似しとあり。かぢと誤りあり。八町堀 寛永年中  
本ハ古くより。和名抄せんその女とあり。昔本挽商賣の者多  
長と八町の堀とあり。志のなが

正一位稲荷 此邊今ハ稲荷の社数あり。恐くハ八町堀五  
町目稲荷橋の隣あり。社をいつとあり。近き  
年再建あり。宮殿彫刻の妙あり。上野山王の彫物あり。まじり  
たき事。目をさしあり。造りあり。鎮座の年代ハ詳ふ。神主ハ  
浦島山 鑊炮洲 寛永の改。井上稲富の両家。大筒の町見と試  
氏あり。此地ハ御城小遠とあり。江戸鹿子大釜小。築地 昔海  
中の

後小鎌倉由井の濱あり。替古あり。江戸鹿子大釜小。築地 昔海  
此島の形。鉄炮小似たり。能名とあり。誤れり。



門 太田道灌此城より出陣を。万民より堅固あり。千里行くと  
其事に千里を帰す。祝して。虎の門と名付し。由。紫一本小  
のさだを。うけかひし。道灌居城の次。城構の狭き。江  
戸。落穂集りし。虎の門と名付し。別小なる也。

見坂 江戸鹿子小。是より下江戸あり。名付し。あやとあり。江  
戸の限りと云事。いまだ他小  
所見あり。江戸の限りと云事。いまだ他小

天徳寺 西の窪  
光明山和光院と号す。浄土宗知恩院末なり。名付し。あやとあり。江戸の限りと云事。いまだ他小

愛宕 此社地ハ  
田の民内藤六郎が山ありし。慶長八年。石川六郎九郎が仰せ。落  
假殿を造立し。鎮座あり。同十五年。本社拜殿。石階小。悉く落  
成り。江戸砂子にんえり。是京都の愛宕をうつし。あやとあり。江戸の限りと云事。いまだ他小

西久保 御城より西の方あり。窪みと云義あり。あやとあり。江戸の限りと云事。いまだ他小  
知積院末。その実ハ御城の西南小當り。別小名付し。あやとあり。江戸の限りと云事。いまだ他小

八幡 寛弘年中。中石清水八幡を勧請せし。由。江戸砂子  
あり。別當寺と八幡山普門院と云。天台宗東叡

金地院 五山派の僧録とあり。此地飯倉の内あり。飯倉神明と号し。社傳不  
末。勝林山と号し。寺領七百石。神明

寛和二年の鎮座なり。建久四年。右大将頼朝より一千三百餘貫の田  
を寄附せし。明應の頃。北條早雲の為小掠奪。奪り。社頭も衰へ。天  
正年中。神領十五石を御寄附あり。寛永十一年。御造営あり。賜ひ  
し。舊觀小。復も。神主を西東某とあり。別當を金剛院と号

烏木林稲荷 天慶年中。依藤太秀御。平将門征伐のた。久  
閑東下向あり。付。靈夢をか。神鳥に

増上寺 三縁山廣度院と号し。閑東浄土惣本寺なり。由。烏木林の  
山田某持。寺領一万五百四十石。當寺初貝塚

昔村落あり。樹木茂り。烏木林とあり。知あれ。烏木林の名記に

山田某持。寺領一万五百四十石。當寺初貝塚

山田某持。寺領一万五百四十石。當寺初貝塚

山田某持。寺領一万五百四十石。當寺初貝塚

山田某持。寺領一万五百四十石。當寺初貝塚

山田某持。寺領一万五百四十石。當寺初貝塚

山田某持。寺領一万五百四十石。當寺初貝塚

の臺小くして。光明寺と云真言宗なり。至徳二年。大蓮社百卷上人  
関東遊行の付。上人の法味小感。改宗して三縁山増上寺と号し。之  
を請く関山とせし由。江戸名所記等小載たり。當山上野ハ。御當家ハ  
御廟所をこれを。其の結構ハ。刻。殊小都下の人。童子とい  
ふ。編く歴覽を。三田 和名抄。武蔵國荏原郡御田と載  
る。古く地名あり。今三田と号す。假借の文字あり。其れ古より通り。小田原役帳ハ。  
太田新六郎が所領。江戸三田内壽樂寺分五貫文と書たり。今此地  
豊島郡 春日 天徳年中。武蔵國司藤原正房任國のうり。氏の宗廟  
の内あり。 大和國三笠山の春日を。勸請を。別當三笠山  
神宮寺持。ハ幡 渡邊綱が守佛薩埵を本地として。勸請を。社  
彼源五綱が住せし。是立郡箕田あり。據あり。當所小。事必せり。  
今當所小網坂。いふ。網の舊跡あり。當社の傳よりいひ。浄土宗  
説く。これより。浄土宗。別當眺海山無量院持。魚籃寺 三田山浄閑寺と号す。本尊  
魚籃觀音とて。唐女の如き

面相あり。右のふ。魚籃入たる籃を持ち。丸形。羽衣をか。けたる  
立像あり。よりて魚籃寺と号す。其の實ハ寺号に。浄土宗京都  
知恩 泉岳寺 曹洞宗野州富田大中寺末。江戸三ヶ寺のあり。  
院末。移され。正保年中再い。移され。浅野家の菩提所あり。家臣  
大石内蔵介良雄等四十七人の義士の石塔あり。寶物と。彼義士等が  
遺物多し。世小遺物目録と云。太子堂 聖徳太子十六歳の御時  
より。則此寺より出所あり。太子堂 自か。造り。御影多  
と云。別當寺を旭曜山常照寺と。大佛 丈六の五智如来と本尊  
号す。天台宗と東叡山の末あり。外小石の仁王。石の地  
蔵あり。共小長一丈餘あり。是等の像。山佛性院本食但唱上  
人の彫刻も。別當寺を歸命命山如來寺 大日院と号す。天台宗東  
叡山末あり。二本榎 續江戸砂子小。昔下高輪上行寺の門前の  
小の。大本榎榎二株あり。是往古の一里塚あり。言傳ふ。此榎ハ  
三十とせり。の田祿小失を。やうて。其の榎も切ひき。今

上行寺門前の所屋とあり。かゞゞるものこゝろ。此二本は榎有るゆゑ。所の  
名とせりと。又江戸鹿子小。白銀原高野寺正覚院の如く。こゝろと載  
たり。是はかのつゞ別之二本榎とや。いづれも此江戸  
方角小のつゞ。大佛と品川の間に在る。前流の枝と見えり。品川  
品川宿とて。目黒川を境として。両宿とあり。東海道五十三驛の内。  
江戸より才一は馬次あり。品川の地名の古書小をえたる。東鑑小品川  
太郎。品河三郎。品河四郎。品川小三郎等の名をのせり。古くとも  
之れ在るを氏とせり。小田原後帳小。品川南北葛西探御領  
七拾七貫三百五拾文と記したる。永祿の既。南南北の唱。一者事  
あり。又品川と云。目黒川の古名あり。此川より起る地名あり。又  
詳。小を。江亭記。南顧則品川之流溶。漾。以染碧。人家鱗差乎  
とあり。これ。珠小大河あり。こゝろ。言葉。染。飾。して  
記し。文あり。こゝろ。小書。久。又。一説。昔。當。所。あり。  
品革を染出と。ぬれ。名。あり。こゝろ。珠。小。牽。強。の。言。と。い。ふ。あり。  
今高輪の内。太子堂と並びあり。此江戸方角の次。小  
小。品川の方。へ。あり。て。あり。と。い。ふ。あり。

### 庚申堂

詳あり。縁起小。大寶元年正月庚申の日。青面金剛始と撰州四  
天王寺に降臨の時。住侶民部卿僧都豪乾感得の像を彫刻し。  
勅命を以て。一國一字の伽藍を建立して安置とす。此の  
一神あり。加えて。永應年中。此所。小。移。奉。常。照。寺。持。

### 東海

### 寺

萬松山と号。寛永十五年。宗彭。濟。庵。和。尚。の。起。立。と。り。知。り。  
臨濟宗。京都。大。德。寺。派。寺。領。五。百。石。を。附。り。境。内。四。方。坪。餘。あり。と。云。

### 未の方永田馬場

江戸鹿子小。山王の前を云と載たり。  
昔。小。馬。場。あり。と。云。貞。享。の。以。り。や。

名の。残。り。と。云。え。たり。江戸。砂。子。小。云。永。田。馬。場。ハ。そ。り。永。田。氏  
の。屋。舗。軒。と。並。べ。一。所。あり。を。か。い。つ。り。今。ハ。一。軒。の。こ。り。と。江戸。志。小。寛  
文。江戸。圖。を。引。く。長。門。馬。場。本。名。あり。と。い。つ。ハ。其。の。按。を。と。り。  
又。同。書。小。此。地。に。赤。馬。屋。あり。と。由。載。たり。これ。を。他。の。所。見。わ。り。き  
説。江戸。名。所。記。小。此。社。ハ。當。國。入。間。郡。川。越。の。う。り。仙。波  
山。と。云。所。小。あり。慈。覺。大。師。寺。院。を。草。創。あり。て。星。野。山  
無。量。寺。と。号。し。天。台。の。靈。地。あり。か。ぐ。て。山。王。の。社。を。勸。請。を。太。田  
道。灌。入。道。文。明。年。中。仙。波。村。星。野。山。山。王。と。江戸。此。地。小。勸。請。あり。

### 山王

其地今紅葉山あり。云。養應三年。溜池の上に移され。是今此社地あり。云。神領六百石。内百石。天正十九年附られ。五百石ハ寛永十二年賜り。別當勸理院。神主樹下氏。其の外。社家。社僧等。数多あり。神會ハ。六月十五日。隔年。執行。江戸。一此祭禮。

### 溜池

此池ハ昔江戸中水道の源あり。由。東海道名所記小のせたり。或云。小田原役帳。太田新六郎江戸櫻田池方二貫三百文と云えたり。古き池あり。事知べし。

### 日ヶ窪

麻布長坂の西。毛利家此屋鋪の所あり。則六本木。下る南の谷なり。南の日ヶ窪。坂あり。日南窪と云ふ。世に人のいひよきあり。日ヶ窪といふ。一本小。栽たり。既小江戸砂子。日南窪と云ふ。

### 六本木

名義と詳し。今櫻田町と云。百姓町といふ。此所ハ昔。御入國の以内外櫻田の百姓小。此所あり。代地を賜り。所造り。や。ゆゑの唱へあり。江戸砂子。

### 長坂

江戸鹿子云。麻布六本木。太田原の

屋鋪の坂あり。麻布より芝罘へ行小。此坂。一。本。松。又。姑。子。印。の。松。と。云。又。小。野。篁。の。手。植。松。と。い。ふ。江。戸。砂。子。等。に。見。え。たり。其。の。後。世。事。を。好。む。の。附。會。した。り。説。は。あ。る。お。も。あ。た。ず。り。此。處。村。里。を。い。ひ。孤。立。と。い。ふ。老。松。あり。一本。松。といひ。始。り。か。る。母。名。ハ。村。里。ハ。往。古。は。此。所。に。あり。と。云。武。江。志。に。記。す。り。往。古。森。内。小。敷。多。の。鷲。住。り。と。い。ふ。つ。て。名。付。し。由。武。江。志。に。記。す。り。今。ハ。此。處。地。名。と。い。ひ。別。當。を。白。旗。山。報。恩。寺。と。い。ふ。例。祭。毎。年。五。月。廿。八。日。

### 一本松

一名冠松と云。又姑子印の松と云。又小野篁の手植松といふ。江戸砂子等に見えたり。其の後世事を好むの附會したる説はあつた。此處村里をいひ孤立といふ。老松あり。一本松といひ始り。かる母名ハ村里ハ往古は此所にありと云。武江志に記す。往古森内小敷多の鷲住りといふ。つて名付し由。武江志に記す。今ハ此地地名と云。別當を白旗山報恩寺といふ。例祭毎年五月廿八日。

### 鷲森神明

異本に鷲森稲荷と

### 麻布

此地多磨川小近あり。故。往古ハ麻を多く植をき。布。を。織。出。す。り。故。名。あり。と。云。江。戸。志。小。言。た。れ。り。

### 善福寺

麻生小在。麻生と云。都筑郡の村名。小田原。麻生を。當所あり。と云。説あり。麻布山と云。一向宗。西本願寺末。関山を了海上人と云。江戸砂子云。往古ハ天台宗あり。関山了海上人。元四百年餘。此古跡あり。親鸞上

人常陸の配所より帰京の時。當寺小刹宿り。浄土法問のうへ了海才子  
と成り改宗せり。當寺に古代の板碑数多あり事。武蔵野古物と云書小  
委し。 **筭橋** 國府方橋。香貝橋。鉤匙橋。鵠居橋あり。古老  
我たり。の説。此地舊名國府方村と稱せり。國府方橋

と云を。誤り轉してかういふと云ふ。南向茶話小云。小  
田原役帳。江戸國府方二十七貫五百四十八文の地を。森添三郎が領せり  
由載しれり。此村名何れと云ふ。又江戸砂子續編。御入國  
の時。此所にて甲賀伊賀組一屋鋪をとり。其の境小かき

橋あり。甲賀伊賀橋と云ふ。よび誤りてこういふといひし。其の  
たり。何れの説にきき。其の傳ふ説何れと云ふ。其の  
人の附會する所あり。

### 白銀

往古白銀の長者と云富饒其の。小  
住り。故地名小唱つりと。江戸名勝志等  
小載たり。小田原役帳。太田新六郎が知行。  
江戸銀世貫文と云ふ。忍くハ當所あり。

### 瑞聖寺

紫雲山  
と云。寛  
文中。黄檗宗本菴  
和尚が墓と云ふあり。 **目黒** 今上目黒村。中目黒村。下目黒村と云  
て。廣き地名あり。沮洳地可成談。今

目黒目赤目赤と云地名あり。其の妻驪と云ふ。いづれ  
目赤字正しと云ふ。目驪目驥目驄と云ふ。其の名馬の名あり。其の  
地より。名付たりと云ふ。武蔵野小目からり。其馬を云ふ。其  
と。此説他不可見あり。又一説。目黒目赤目白と云ふ。其靈驗名と云  
不動尊安置あり。かの像の眼の色より起り。唱あり。其  
は。其の。此目黒と云ふ。古き地名あり。東鑑。小目黒彌  
五郎。目黒小太郎あり。其の。是在名と氏と云ふ。小田原  
役帳あり。江戸廻り。目黒本村拾七貫五百文の地を。太田源七郎領  
たり。

### 不動

日本武尊と祀り。社あり。後小慈覺大師  
のせたり。彫刻の不動の像を安置して。不動といふなり  
と云。昔ハかり。其の堂あり。寛永十一年。公より御再建あり  
と云。近御類い少堂舎と云ふ。別當を泰庵山龍泉寺

### 池上

荏原郡小属と云村あり。品川宿より一里。目黒  
と云。東叡山末也。村より一里半を隔たり。此地ハ昔  
関東番匠の棟梁。池上右衛門大夫宗仲が注せり。其の宗仲が家小  
年中。日蓮上人房州より鎌倉へ至り。其の宗仲が家小





路をわづらひて。かの屋舗の内に別の道を設けり。千駄ヶ

谷 梓行の江戸方角小千駄本とあるは、誤りあり。其土本に、昔

と名付し由あり。又江戸砂子に、其土色菅野あり。一日に千駄

の菅を出せし故の名ありとあるは、其土色菅野あり。一日に千駄

沈みし。かやうやう下界あり。洗谷 東鑑治永五年八月

事。他の地名も其の類多し。洗谷 廿七日の條。洗谷

庄司重國の次男高重。無貳の忠節を竭き不依り。當知行洗谷

下御所濟り貞免除を賜ふ。我れを。古より上郷下郷

の分ちりし。小田原役帳あり。太田新六郎が 金玉櫻 洗

知行下洗谷六貫五百文と出たり。名義ハ未詳。八幡社地より。古くハ憂忘櫻と唱へしあり。相傳久壽年

中。源義朝朝臣鎌倉龜谷の館小梅あり。憂忘櫻を。金玉丸

小賜ひし。領地洗谷小。未詳。鎮守八幡の瑞籬の邊に植

り。世にりて文明の以。當所小黄金長者と云人あり。是洗谷氏に

末葉切あり。疫癘乃難あり。神託ありて此靈本の奇特あり。かの難

病を能くし。紫一奈小云。此櫻昔本ハかき失し。紀州に

養珠院殿かつて彼實生を御庭に植ふ。其の以。其の

人子洗谷善入と云もの。金玉丸の子孫のり。きりめされ。其の

實生ハ櫻を善入小賜ひて植。高井戸 田國雜記小。堀が

り。其の今の本と云。今ハ高井戸と云。古ハ地名と見えり。河

の邊より。上高井戸。下高井戸と云。甲州街道馬次の宿場あり。

百ハ麹町 此邊地高井戸あり。古より麹屋造り

と云。今ハ 天神 神社畧記云。當社ハ文明十年六月廿五。太

田道灌當國河越より江戸城中平川口

小勸請し奉る。其の後慶長年中。今の處小移し奉る。故ハ此

平川天神と号し。別當ハ天台宗あり。長松山龍眼寺と号し。此

社當社の事ハ。落穂集に載て。編。四谷 昔此處人家あり

人の子あり。其の今の本と云。今ハ高井戸と云。古ハ地名と見えり。河



記せり。別當を福嶺山東圓寺と号す。江戸砂子云。福嶺山の号ハ。福  
荷の社より鎮座ある故ありと。今も地主乃神といひ

### 番町

舊事茗話云。一番町より六番町まで其名あり。其  
ハ。元和寛永の頃。大御番其屋鋪を此ありて賜。此府

一番組より六番組まで。ゆゑ此名あり。其の表といひ裏とい  
ひ。或ハ新道ありて。小路多く分ちたり。此説正しきものハ  
いふ所見あり。或云。當所其地割ハ。實の目小カ。よりて定り  
たり。一番と六番。二番と五番。三番と四番。各々裏合せ不續  
きたり。此説も然らん少。大御番

### 五段長屋

市ヶ若御外より  
尾州寺古釜の西の

方にも。坂下をたれ。棟の數五段にあり。故か。河田窪  
此昔

地小祿多住居して。草を製と。ゆゑか。河田窪といひ。後  
河田の字にあらせ。由。江戸志小。今按。和名抄。穢多を加。和太  
と訓を。に。校。草を製と。ゆゑか。河田窪といひ。後  
地云。長。今ハ町名にも。又。月。桂。河田

### 原町

江戸圖説小云。此邊い。原野あり。或云。原  
一。ゆゑか。河田窪といひ。後

### 早稲田

此邊其土性。早稲ふ。ゆゑか。河田窪といひ。後

神社畧記云。寛永十三年。御弓隊の長松平新五左衛門尉源直次。其  
与カの人。當所に於て。的。山を築。弓替古を。け。ハ幡太神ハ

清和源氏弓箭の守護神あり。此山小勸清。奉らん。然る  
此山。少。より。二本の古木の松あり。名。山鳩。三羽来りて。此松

遊。人。奇異。思。假。小。宮。を。造。管。お。松。を。神。木。と。鳥  
居。を。建。建。祀。祭。り。其。の。後。五。六。年。を。歴。又。建。立。あり。元。録。年。中。小。玉。子。

桂昌院殿。再興あり。今。の。こ。と。大。社。と。あり。江。戸。鹿。子。云。當。社  
鎮。座。の。砌。周。防。國。山。口。の。八。幡。の。氏。人。あり。後。沙。門。成。良。昌。僧。都。と

い。つ。の。後。社。僧。た。り。人。と。請。待。此。山。の。麓。を。切。開。き。て。堂。庵  
を。造。ら。ん。と。せ。ふ。小。山。に。穴。不。握。り。り。て。其。穴。中。より。長。三。寸。許。の。唐。銅

の。海。印。を。得。り。彌。陀。八。八。幡。が。地。あり。て。良。昌。加。持。して。沙。厨。子  
小。移。奉。り。ゆ。ゑ。に。穴。八。幡。と。稱。と。別。當。を。光。松。山。放。生。寺。と

目白

此地ハ関口村の内あり。目白ハ呼名ハ。不動の名より起る。物産御前可成淡小馬の

不動

世目白不

白不在をりていつや。又此不動の号より起る。地名ありや。い

高田馬場

高

村内小河馬場あり。呼名とあり。寛永十三年。鉤命あり新小化らぬ賜ひ馬場ありといつて。

灰の方田安

古くハ代官所御門よりいへ。一ハ小我なり。又寛永江戸繪図ハ飯田町口とあり。飯田町一ハ御門あり。志々田安ハ村名ありや。古書にハい

臺といひ。半込御門の内をいふ。下々田安と云り。記さる。

飯田町

古くハ代田村にて。田安を續きたる村落あり。飯

田喜兵衛と云ふの町並小取立。ゆゑ。たゞ。小彼が氏とて町名小用い。九段坂を昔ハ飯田坂と稱する由。かの喜兵衛ハ此坂の邊小住居。此坂小男女。群聚せしと載る。此ハ天和年中於作あり。當所はく廿六夜。侍をもちん。古く始。是飯田坂の一名あり。此坂の邊小昔武家屋舗並び在て。

九段長屋

長屋の棟九段小分ち建たを呼名とあり。其の後坂の半より上。御用屋舗と成せられ。寛政四年回祿小あり。鳥有とあり。此。遂小火除の間地小定名。今ハ植木屋等地とあり。牛込。此所ハ往古武蔵野の牧の

牛込

有。牛多あり

一。當國小牛の牧あり。牛。南向茶店小。當國小牛の牧あり。小田原後帳小。大胡某の知行江戸牛込六拾。四貫四百三拾文。恒岡弾正忠知行江戸牛込内富塚五百文。王子社領牛込

内三貫百八拾文等我たれを。

### 神樂坂

高田穴八幡の旅所此坂の上

古くは村名あり一車志あり。神樂を奏する由志呼名とあり。江戸砂子に。市谷八幡の祭禮小神

輿牛込御門の橋の上小志つゝ留りて。神樂を奏する事例あり。此坂をかく名付とあり。又津久戸明神舊比より今所へ遷

座の時此坂を志す。神樂を奉りて。是れは古くは旅所ありと云。是れは古くは

武蔵國江戸平川觀音堂小なり。是を津久戸神と云。文明の

年。田安井内小遷座あり。又四十餘年を經く。今の所へ遷りて。別當と善龍山成就院と云。

### 赤城明神

赤城神社。上野國

天台宗東叡山末。神名帳に我られたる古社あり。然るを同國大胡の城主大胡常陸

高田穴八幡の旅所此坂の上

市谷八幡の祭禮小神

神樂を奉りて。是れは古くは

武蔵國江戸平川觀音堂小なり

文明の年。田安井内小遷座あり

今の所へ遷りて。別當と善龍山成就院と云

赤城神社。上野國

天台宗東叡山末

牛込の地を於て。移住せし時。先祖の信向有し。神ありて。遷座し

奉りて。大胡氏。後年在名小より。牛込氏小改りあり。則今の

牛込忠左衛門の先祖あり。別當八天台宗。小日向。和名抄小豊島郡

東叡山末あり。赤耀山圓明院等覺寺と云。小日向。日頭と載た。今

の小日向也。山岡明阿といふ。據あき記あり。うけがひあり。又江戸砂子

昔此所ハ鶴高日向といふ人の領地あり。家絶後。古日向といふ。いつ

の次より。小日向といひ。鶴高日向といふ。他小所見ふ

く。又古日向といふ。こいゆうといふ。喝少きあり。全く文字不付。幸

強したる説あり。小田不役帳。太田大膳亮小日向屋浦分貳拾貫四

四拾文恒岡禪正忠小日向内拾六貫五百七拾文の地を領す。由載り。古

地名あり。其名の起り。大塚。小石川の内あり。武江志云。塚の上不動明王

小日向の所。大塚と呼べし。是今の波切不動あり。或云。志久河。小石川

小日向の接地あり。森川其の屋鋪内小。大塚河の由志の唱あり。又一説。太

高田穴八幡

市谷八幡

神樂

武蔵國

文明

田安井内

赤城

天台宗

牛込

東叡山

小日向

鶴高

古日向

小日向

大塚

小石川

波切

大塚

小日向

太田



古き地名なり。今淺草新盛端あり清水寺。昔此寺小寺。其の寺号と  
あり。其の寺ハ文禄年中慶圓法師の中興をり。清水の名の  
古きこと推して。寛永日記小元年淺野但馬守長晟小命して。清水寺  
門を建し。めらる。此所新造し。先られたる事とせえ

### 小川町

昔江川南へ流れて。平川一落合し。當所へかゝりて  
流る。ゆゑ。後小地名と成り。又小川町のうらふ。こ  
御鷹匠多く往して。其のまはる。元禄六年ふ。あ。こ  
川町と改め。命とせ。と云事。正。き。の。小。え。り。三。崎。縮

荷の縁起。往古小川町のま。三崎  
村と稱し。由哉なき。い。こ。り。

### 水道橋

此橋の末ふ。こ。い。て。玉  
川上水の大通り。ゆゑ。

と。い。つ。り。昔。此。橋。の。小。今。駒。込。ふ。あ。の。吉。祥。寺。を。り。ゆ。ゑ。吉。祥。寺  
橋と改。現。小。古。き。江。戸。繪。圖。に。志。の。せ。り。彼。寺。明。曆。三。年。の。大。火  
小。焼。失。して。移。地。を。り。こ。い。つ。て。橋。の  
名。と。改。り。ん。此。以。の。事。な。る。べ。し。  
立。慶。橋。小。田。向。の。内。江。戸。川。小  
橋。の。ま。ふ。大。橋。立。慶。の。屋。舗。あり。ゆ。ゑ。呼。名。と。せ。り。立。慶。ハ。長。左。衛。門。の。父。と。て。  
大。橋。流。筆。の。元。祖。あり。此。少。一。小。古。老。の。云。此。川。の。螢。ハ。宇。治。の。種。あり。て

他小異あり。ゆゑ小流螢橋とあり  
少なる。是。附。會。の。説。あり。

### 牛天神

別當寺と泉松山龍門  
寺と号し。縁起小元

曆元年右大将頼朝の建立して。菅公御自作の像を神拵とす。新小  
造営あり。社名小牛と云ふ。ゆゑ。牛天神と云ふ。又江戸砂子に。東湖和尚  
此事東鑑等小載とあり。う。か。ひ。こ。り。又。江。戸。砂。子。に。東。湖。和。尚  
の。勸。化。疏。と。云。ふ。の。南。社。ハ。北。條。九。京。大。夫。氏。康。の。勸。請。あり。と。云。ふ。た。れ。を。  
其の傳ハ。誤あり。と。云。ふ。た。れ。彼。勸。化。疏。ハ。全。く。妄。言。  
あり。と。云。ふ。北。條。五。代。記。等。書。小。當。載。と。云。ふ。事。を。

### 傳通院

浄土宗十八檀林の具一寺なり。無量山壽經寺と号し。寺領六百石の由  
朱印を附ら。開山八箇蓮社了譽上人あり。明徳年中の起立といふ。此  
極樂水の傳寶院を創し。人あり。然。こ。後。年。東。照。宮。の。御。母。堂。傳。通  
院殿かの傳寶院を御歸依有。逝去の法御葬地小成り。人の御願あり  
し。境内狭く。こ。僻。地。と。云。ふ。慶。長。八。年。新。小。當。寺。を。御。建。立  
せ。り。現。住。廓。山。上。人。中。興。の。開。山。と。云。ふ。ゆ。ゑ。推。して。了。譽。を。開。山。と。云。  
と。あり。舊。地。傳。寶。院。也。移。り。の。ち。建。置。れ。し。を。後。小。越。後。少。將。忠。暹。君。の。由  
母儀。茶。阿。局。が。葬。地。と。云。ふ。宗。慶。寺。と。改。む。宗。慶。ハ。外。彼。局。の。法。号。の。字





寶珠山延命院と号し。法華宗妙顯寺末あり。水戸家より寺領として百石を寄附せり。日暮里 當所の古名新堀村といひ。小田

系後帳小。遠山孫九郎新堀四拾五貫文と領せり。延寶八年梓行の江戸安見園小入堀村とあり。然して後年假借して日暮里と

あり。是も延命院とて云々。此里と唱へし。より。いづり。さかひ。の里と稱せり。つづふ。妙隆寺。修性寺。の通稱あり。新堀村と概して改名

したるに。又。此新堀と道灌山より空を。春秋の京色。溝小日の。と。い。わ。れ。ん。知。づ。ま。お。ん。た。く。廿。小。日。と。い。ふ。の。里。と。い。は。れ。し。せ。を。と。り。牽。強。と。道。灌。山。太。田。道。灌。の。跡。あり。と。云。い。は。れ。し。と。云。い。は。れ。し。繩。張。の。跡。あり。と。云。い。は。れ。し。水。の。と。り。跡。と。い。は。れ。し。申。享。保。の。改。め。て。い。は。れ。し。法。人。遊。觀。の。場。と。い。は。れ。し。春。と。い。は。れ。し。老。若。黃。御。酒。有。を。携。へ。今。の。飛。鳥。山。の。と。り。と。い。は。れ。し。い。ま。も。た。り。江。戸。志。小。載。と。り。遠。山。孫。九。郎。知。行。江。戸。駒。込。廿。六。貫。文。梶。原。助。五。郎。知。行。駒。込。此。貳。貫。六。拾。文。と。載。た。ま。し。昔。より。廣。き。地。名。と。い。は。れ。し。吉。祥。寺。諏。訪。山。と。号。し。曹。洞。宗。永。源。寺。末。寺。領。五。拾。石。と。賜。ふ。尚。寺。開。闢。畧。記。玄。長。祿。年。中。太。田。道。灌。江。戸。城。營。開。あり。付。井。と。堀。と。井。中。よ。り。吉。

### 道灌山

### 駒込

### 吉祥寺

祥の文字あり。金印を得たり。是古瑞あり。寺を開闢して。吉祥寺と名づく。其の時今此和回舎の内あり。諏訪明神の社地あり。ゆゑ小。山を諏訪山と号し。その後今此水道橋外へ移され。明曆丙丁の後。當所へ移せしれ。小田。東北條家よりの寺領寄附状。及禁制書等。數通藏し。たれを。古より大寺あり。事あり。初。富士 小。當社ハ昔本郷の内あり。山のう。不。大。木。一。か。あり。此。不。大。雪。積。も。人。民。之。れ。小。立。が。れ。を。必。た。り。り。依。て。富。士。淺。間。を。勸。清。も。舊。地。ハ。如。州。家。屋。舗。の。内。あり。寛。永。年。中。此。地。小。移。さ。り。每。年。五。月。晦。日。と。月。朔。日。庶。人。と。し。清。を。と。別。當。寺。と。富。光。山。瑞。泉。院。真。光。寺。と。号。し。天。台。宗。上。野。末。別。當。寺。と。大。聖。山。南。谷。寺。と。号。し。天。台。宗。上。野。末。あり。相。傳。ふ。昔。伊。州。目。赤。山。乃。二。世。万。行。和。尚。廻。國。の。時。此。尊。像。と。感。得。して。當。所。へ。鎮。座。さ。り。小。後。年。寛。永。の。頃。此。多。御。鷹。野。の。片。に。て。御。成。有。て。目。黒。目。白。此。不。動。あり。此。れ。小。對。して。目。赤。と。呼。ぶ。の。釣。命。あり。と。り。目。赤。不。動。と。唱。へ。し。ゆ。し。由。江。戸。砂。子。に。載。た。り。

### 深井

西。が。あ。ら。う。ち。あ。ら。も。南。所。深。井。小。西。福。寺。院。内。福。翁。社。の。流。し。洗。ふ。深。井。と。云。古。井。あり。と。り。の。唱。へ。あり。と。い。

一。そのゆゑなり。白山 小石川指谷町小謀座あり。元和元年加州白山社と  
ハ詳あり。江ノ記より。江戸名所記に。江ノ記より。江戸名所記に。江ノ記より。江戸名所記に。

御殿跡の内なり。と傳ふれども。兼應年中 王子権現 王子村小  
館林君の御屋鋪と成し。後。之へ移り。あま。王子村小  
の畧ふ。當社若一王子。紀伊國熊野の権現を勧請せり。元亨の頃。豊島某新ふ

初宇を建。つ。久々。中葉以來。宮社と。衰廢と。御入國の後。社順  
式百石。或。御寄附あり。其の後。寛永十一年。釣命あり。社頭と。御造

管あり。賜り。今。大社と。別當と。禪表山東光院金  
輪寺と。古義真言宗あり。當社小。花鎮の事と。由。縁起

小の。今。祭事。毎年七月十三日。田樂。由。神  
事あり。甚古。同稻荷 王子権現の末社あり。全輪寺の持あり。昔

あり。其儀あり。岸。稲荷と。稱と。由。往古。入海に  
して。その岸。鎮座あり。を。か。号。毎年十一月晦日。狐火

と。田畑の吉。江。戸。砂。子。に。栽。り。由。社。の。神。徳。い。ち。志。す。き  
故。今。社。権。現。と。り。將衣束榎 稲荷社の前。田の。う。ち。小。河。り。毎  
年十一月晦日の夜。く。う。て。狐。火

衣裳を改。む。ぬ。え。飛鳥山 昔。飛鳥社。此地。小。河。り。ゆ。え。名。を。せ。り。  
名。と。り。と。一。今。の。才。六。天。森。その。舊。地。あり。と。云。寛永

十年。飛鳥神社を。王子権現の社。地。小。う。つ。れ。當所を。旗。下。の。士。野。間  
某の。采。地。小。賜。い。と。元。文。二。年。或。八。年。保。此。地。を。王。子。権。現。一。寺。寄。附。と。り。

熊野神事の例。小。う。つ。て。櫻。樹。を。植。せ。り。と。勝。景。の。名。所  
と。あり。て。春。と。り。人。の。つ。ひ。遊。賞。せ。り。と。あり。或。云。此。櫻。ハ。昔。吹。上。の

寺。を。移。し。植。り。銘。小  
あり。と。い。は。し。る。の。中。に。小。建。り。銘。小  
櫻。樹。を。植。せ。り。と。大。畧。を。志。す。り。あ。り。元。文。丁。巳。之。秋。奉。祠。金。輪。寺

住持。權。大。僧。都。宥。衛。立。東。都。圖。書。府。主。事。鳴。鳳。卿。代。撰。并。書。と  
あり。裏。面。小。飛。鳥。山。四。至。榜。示。自。良。至。坤。七。十。三。步。自。巽。至。乾。二。百

二。步。と。志。す。り。碑。石。の。高。六。尺。八。寸。幅。六。尺。餘。此。石。ハ。吹。上。御。庭。小。寺。一  
を。賜。り。つ。り。と。の  
といひ傳へり。

丑の方一ツ橋 御入國の因分。大き。丸。本。の。一。ツ。橋。を。か。け。り。  
其。の。名。と。せ。り。由。一。本。の。一。ツ。橋。を。か。け。り。





いちちちちちち六  
の釋迦如來あり **感應寺**

長耀山と号し。天台宗上野末あり。此寺始ハ法華宗に。開山ハ日蓮上人。二世日源上人あり。元禄年中。住持日察の時。妙榮尼と云ふ。破戒の事あり。同き十一年九月十三日。八丈島へ流罪を。後。今。宗門不改。住職とをへられ。天台宗関東の總本山あり。寛永二年酒井寺領三十石。讃岐守忠勝小命せ。新小御建。寺に年号を。容易あり。將軍家の御廟を建。持小御。又東叡山と稱し。比叡山小對。將軍家の御廟所。天海大僧止あり。後慈眼大師と溢。抑當六。將軍家の御廟所。東照宮の御宮を。又天海遷化の後。世。宮家より。住職御相續あり。靈場あり。又天海遷化の後。世。宮家より。瑠璃殿の額字ハ持明院基時卿の筆に。靈元院の御入筆と云。文珠樓吉祥閣の額ハ一品宮の御筆。仁王門東叡山の額ハ座主公辦法親王の御筆あり。弘善義を。御造營。その餘法華堂。常行堂。經堂。番神堂。鐘樓以下。所謂七堂伽藍。是

**東叡山**

此東叡山小屬せ。地ハ百姓地町並地を合とい。総三拾萬坪許あり。その内木敷六万坪あり。山に境内あり。又當山を上野と唱ふ。此地ハ先藤堂家の屋鋪小賜ひ。彼家の在城伊賀國上野ハ三方より上りて。小高き山あり。その地の似。上野とよ。江戸砂子小志。世の人。是。小雷同。江戶上野拾八貫二百文の地。本内宮内少輔領。及。津孫四郎。上野内五貫七百文を知行。武蔵風土記。豊嶋郡下上野下谷。能名ハ。雉雀等。又真薯蕷松脂と載。小田原後帳。大谷十郎九衛門。知行。江戸廻下谷菅野分。三拾五貫九百文。古地名。圓満山と号。臨濟宗大徳寺末。當寺始ハ相州小田原の城下。天正十八年北條家滅亡の後。江戸へ移。今の昌平橋内小住。寛永の。再び下谷へ移。開山真如廣照禪師あり。

**廣徳寺**

圓満山と号。臨濟宗大徳寺末。當寺始ハ相州小田原の城下。天正十八年北條家滅亡の後。江戸へ移。今の昌平橋内小住。寛永の。再び下谷へ移。開山真如廣照禪師あり。

**幡隨院**

浄土宗十

八檀林の一あり。寺領五拾石。神田山新恩寺と稱す。當寺昔ハ湯島天神下。今此板倉氏の屋鋪の邊小丘と云。明曆丙丁の後、一移されり。清

### 水寺

天長年中。慈覺大師の草創ありて。始ハ平川清水の邊小丘に唱へしと語り傳はり。遙の後文祿年中。慶圓法師中興し。由。寺記小見えたり。此以當所へ移りしあり。江北山寶聚院と号し。上野末。當寺以下ハ淺

### 誓願寺

田島山快樂院と号し。開山東譽魯水と云。相州小田原に於て開基あり。元和年中

今此西丸の邊一移り。其の後銀町へ移り。又元誓願寺此地に移り。明曆三年燒失の後。より一移されり。あり。元祿の辰。桂昌院殿浄菩提所と定め

### 東門跡

大谷山本願寺と号し。西門跡一對して。東門跡といひ。開六教如上人あり。此西ハ願寺ハ。其れ京都のうつゝに。かの地より輪番持の寺あり。當寺昔ハ今此神田明神下火除地の所小あり。を。明曆年中一移されり。由。江戸。淺草の大工字御司ふ。我たり。古き砂子に載たり。地名と云。小田原。没帳小。淺草内。四貫二百文

### 淺草

東鑑小。淺草の

の地也。江戸鍛冶領と云。記をれ。古より廣く唱へたる事。此を觀音。江戸名所記云。昔武蔵國豊島郡宮戸川

### 觀音

ハ。漁者其集あり所あり。是今の淺草川あり。此川の邊小兄弟三人の漁者あり。兄を檜熊と名づけ。次を濱成。弟を竹成と稱す。推古天皇の御宇三十

六年戊子。三月十八日のことなり。三人の兄弟かの宮戸川不出て漢一と云。不思議小觀音の靈像細不入。い。せ。ひ。ゆ。急。奇異其思ひをわたり。そのあり。我家小かへり。かり。其の草庵を置く。安置。奉。是今此

尊あり。檜熊濱成竹成の兄弟ハ。没後子孫のものを神小祭り。觀音の守護三社権現といふ先也。今の縁起。檜熊の濱成竹成と云。又此の觀音あり。時。十人の草刈。と云。カを合せ。寺堂以建之。是。後世神小

祭り。十社権現と号す。其の後大化元年勝海上人中興。又天慶五年安房守平公雅。所願満足之事あり。堂塔以下造立あり。是。此

靈場とあれ。右大将頼朝より三十六町の地を寄附。多。是。利家

と云。寺領を賜り。今ハ寺領五百石に。上野の末寺小属。金龍山淺草寺と号し。別當ハ昔知樂院と稱す。後小

傳法院と改り。其の餘塔頭供僧等甚多。待乳山 亦打

山又真土山と書す。按小駿河國角田川近よきふ。亦打山と云々のありて。万葉集辨基の歌ふ。亦打山夕ふと云れ。養崎の。角田河より獨りわんと云。名高き歌われを。こゝに隅田川近き。知の山ありゆゑ。彼ふあらしく名付ありん。聖天 待乳山の上あり大 同元年。伊弉諾尊伊

非丹尊と勸請をといひ。別當を金龍山 日本堤の側あり。惣名新吉原町と

本龍院と号す。浅草寺の末あり。吉原 惣名新吉原町と

いつ。江戸町京町角所中より所の名りて。おゝあゝ遊女町あり。相 傳ふ此傾城町ハ。慶長此頃。庄司勘右衛門と改む。と云ふ。新い小使を。

菅屋町の下あり。二町四方此所を賜ひ。元和四年迄小普清成と云。是今 此大門通りの地あり。然ふ明暦三年焼失の後。江戸中小置(きま)のありら として。當所へ 橋場總泉寺の門前あり。回國雜記ふ

移されあり。浅茅原 云。あらしふと云所あり。人のま(か)れ淋 一き夕ま(か)れ。浅茅(あさ)うま(か)れを分つ。是文明十八年の紀行ありを

古くより名ふたて多比といんを。こゝ小妙龜塚と云々のあり。今小妙龜 大明神と追禱す。是梅利丸の母。貞元二年鏡の池小力を 授いたる。まき(か)れを埋り。塚ありといひ傳ふ。真崎稻

**荷**

石濱の内にと。出先にある社ありを。真崎稻荷と稱すといひ。社傳小 當社ハ千葉今常胤の鎮護神ありを。こゝ小鎮座を云。石

**牛嶋**

浅草川東岸の惣名あり。小田原後帳小 富永祢四郎が知行。江戸牛島四ヶ村百五

**牛御前**

牛島の内洲崎村 小あり。社傳云。貞觀

二年。慈覺大師神託を蒙り。素戔嗚尊を勸請して。牛御前神社 と号し。其の後元慶元年。清和才七の皇子。當所小来りて。同き 年九月十八日薨りて。時の位持良本阿闍梨。當社一配祀 して。王子権現と祝ひ奉りて。二座相殿の社とあり。別當寺

**三圍稻荷**

是ハ牛島の内あり。小梅村あり。 縁起云。文和年中近江國三井 寺の住侶源慶僧都と云ふ。靈夢の告を蒙りて。神祇をこゝより移出

せり。その時につちより白狐来りて。神祇を三度めかりて。失くれを。 たり。三圍稻荷と尊稱す。永く當所の鎮守といひ。元禄の 以。俳人其角土人の雪祭と云ふ。かゝりて。祈雨の心を詠して。立處小雨







國豊山と号す。浄土宗増上寺末。當寺ハ明曆三年。正月十八九兩日火災。小死亡と一所の拾万七千餘人の亡魂の爲。巖命小依。草創ありと云。世傳當寺を無縁寺と唱ふる人のハ。其の何れ先死骸を塚小築こめ。妻縁塚と稱せしを。送り傳へしと云ふ人。是より毎日佛のを。僧拾六人を出し。江戸市中を勸化す。かの幸縁の亡魂追福の爲。清浄なりと云。川端通。松浦氏屋鋪の前あり。江戸砂子云。里諺ハ幡太郎義家公奥州参向の時。義家公の乗せし所の馬駈出さる。中より一巾急かぐ名付し。是より據あき改行して。信をべき事小ありと云。古よりい傳ふ事と云えり。業平橋中の御より。押上村の方へ通ふ橋あり。橋のま前小業平天神の社あり。橋をしかく唱へし。業平天神と云。元慶年中。在五中將業平朝臣歌枕尋ねんと。其の跡小あり多し。時。末世小像をとりんと。清長一尺餘の衣冠の像をもづり彫刻して。里小ありと云。後小業平天神と崇め祭る。由。かの社傳小ありと云。これに據あき説あり。姑く傳へしを云ふ。太宰府天神

駒止石

廻向院より北の方大

業平橋

業平橋より東の方。亀戸村小あり。故小亀戸天神と云。社傳云。太宰府の社職菅原善昇十八世の孫。大鳥居信祐と云。其の靈夢の告をあり。天満宮の靈と云。飛梅をとりて。神躰を彫刻し。慈多き社を建立して。鎮座し奉らん。諸國を巡歴し。遂小尚國小あり。寛文元年此村の中をたそし。天神の小社を修造し。遷座し。明和三年の執政松平伊豆守信綱。久世大和守廣之指揮して。本所新地の鎮守とあり。造立のまきりし。新小今小あり。社地を賜り。同三年神殿以下反橋心字の池あり。此のまきり。太宰府の社小擬して。他りあり。別當寺と天原山。聖廟院東安樂寺と云。妙儀天神の社地。東にあり。其の社傳云。妙儀と云。拝殿の扁額あり。御嶽山の三字をかけた。當社ハ寛文九年。天満宮の師あり。比叡山延曆寺の座主。法性坊尊意僧正の靈をあり。上野國妙儀山。かの法性坊を勸請せし社あり。混し。清浄。妙儀とい傳へし。なまきり。今も正月卯の日。神符を乞ふ。門前小巫女と云。多し。伝ふ事あり。妙儀山の例小あり。梅屋鋪

妙儀

天神の社地。東にあり。其の社傳云。妙儀と云。拝殿の扁額あり。御嶽山の三字をかけた。當社ハ寛文九年。天満宮の師あり。比叡山延曆寺の座主。法性坊尊意僧正の靈をあり。上野國妙儀山。かの法性坊を勸請せし社あり。混し。清浄。妙儀とい傳へし。なまきり。今も正月卯の日。神符を乞ふ。門前小巫女と云。多し。伝ふ事あり。妙儀山の例小あり。

梅屋鋪

天神より東。四町より隔てり。百姓を居る。

う宅地あり。こゝ小梅多し。梅は。卧龍梅とて世ふつゝ一き梅あり一株  
ありて横たふ多し。四方凡二拾間あり。その枝地より根を  
生じて枝葉茂ふ。又それより延亘して。別一株の本をあらゆゑ  
今八十餘株ふまきたる。さうばり一株より分れし。今  
も朽たれ枝。彼も是とちて。こゝかこゝ不孩たり。近世別  
ふも本あり。出でて。三百五十株の梅林あり。ゆゑ。不の以て感ん  
む。御遊獵のついで。尚所へ渡御りて。御賞義のゆゑ。御用本小命  
せしれしより。今ふまて。志をく

### 吾妻森

御立よりあやせり。今ふまて。志をく  
吾妻権現社より地をかくり。社傳云。景行天皇四十年。東夷征伐  
として。日本武尊東國小下向し。同き八月。相摸國より上総國へ行ま  
さんとき。暴風吹起り。御船を漂蕩し。渡をべし。時。尊の妻  
橘姫。海神小誓ひ。力をもち。さうばりとして浪を飛入。遂に水の泡  
と見え。既小風や。波靜あり。御船。うかく。若岸。いせのち。帆夷  
と平らげし。とあり。かの橘姫入水の時。御力。さうばり。ゆづり。夢。鏡。云。あ

ゆゑ。後世徳積家傳へたり。正治二年八月十五日。尚所へ安置し  
行基の化す。十一面觀音を本地傳し。吾妻権現といひ。あ

### 木下川薬師

と。別當寺と東林山寶蓮寺と号す。村小あり  
新義真言宗寺。島村蓮善寺と号す。  
とあり。か。い。つ。り。縁起の畧云。本尊。藥師如来。傳。教。大師。嚴。山。小。於。形  
刺あり。像あり。を。廣。智。と。云。僧。尚。所。一。守。も。未。て。安。置。と。り。後。年  
慈覺大師東國行化の時。再興して。青龍山淨光寺と名付。其子慶寛  
小命して住持たり。大梵刹とあり。此縁起ハ嘉曆二年  
住持沙門義純が志せり。奥書あり。及び應永三十三年。奥津右  
末門五郎家定が寄附狀等傳したる。古き靈地あり。事論あり  
を。下。徳。國。相。馬。郡。布。施。村。小。あり。を。も。て。た  
し。布。施。辨。財。天。と。稱。と。い。つ。り。か。の。布。施。村  
と云ハ。江戸を去ると上道十里。小。あり。た。れ。を。此。江。戸。方。角。小。入。づ。き。の。小  
あり。當。時。世。不。流。行。して。名。小。き。辨。財。天。あり。を。撰。者。里。數。の。遠。き  
を。わ。い。たり。ふ。か。い。け。し。の。あ。と。し。又。下。に。載。し。真。間  
の。多。ふ。び。あ。り。え。う。池。上。等。し。行。程。と。隔。り。た。れ。を。関。東。及。三。十

### 布施辨財天

を。下。徳。國。相。馬。郡。布。施。村。小。あり。を。も。て。た  
し。布。施。辨。財。天。と。稱。と。い。つ。り。か。の。布。施。村  
と云ハ。江戸を去ると上道十里。小。あり。た。れ。を。此。江。戸。方。角。小。入。づ。き。の。小  
あり。當。時。世。不。流。行。して。名。小。き。辨。財。天。あり。を。撰。者。里。數。の。遠。き  
を。わ。い。たり。ふ。か。い。け。し。の。あ。と。し。又。下。に。載。し。真。間  
の。多。ふ。び。あ。り。え。う。池。上。等。し。行。程。と。隔。り。た。れ。を。関。東。及。三。十

里四方といつゝ外ぢれ。之れその名の高きまに。かゝるに  
懐いてのせ。あゝん六町一里の三十里ハ今の五里あり。**真間継橋**

下徳國市川村の内。琵琶溜井より下流小加戸一なる橋あり。日本橋より  
凡三里半を隔つ。萬葉集作者詳あゝ也。下徳國の歌四首のうらた。何  
の音せん。何ん。約も。かつ。の。ま。お。継。も。や。さ。ぞ。か。ら。ん。と。や。せ。

名所ありと云。真間浦真間入江と稱し。此近きまの名所なり。と云  
小古歌ふも。り。萬葉集も。かつ。の。ま。お。浦。ま。を。こ。の。歌。の。あ。ん。さ  
は。と。活。た。つ。ん。續千載集。前右兵衛督為教卿の歌。そ。あ。さ。彩。し  
か。り。げ。む。し。り。お。お。入。江。の。秋。の。夜。の。月。を。と。

### 弘法寺

真間の内あり。

故小真間山と号し。日蓮宗中山法華經寺末。此寺始ハ古義のま言宗に  
いし。弘法大師真言弘通の付。関東最初に道場たすを。弘法寺と  
名付し。なり。おの。存。建。治。三。年。時。の。位。僧。了。性。法。印。中。山。の。開。山。日。常。上  
人。と。宗。論。して。理。の。屈。し。れ。を。宗。門。を。改。免。法。華。經。寺。の。末。小。属。し。日  
蓮上人の指揮して。寺号を唱へ。号音小改め。日常倍体たり。付  
の。伊。豫。河。瀬。梨。日。頂。と。して。住。職。た。り。し。り。と。あり。由。て。今。日。頂。と。開

山と稱す。境内西南の丘上。遍覧亭と云。小亭あり。一ハ享保年中。或ハ十一年  
丙午三月  
小全宗清康狩。御成。有徳院殿。此。遊。獵。の。内。當。寺。一。渡。御。あり。と。眺。望。揚  
かけ。小。立。々。と。い。ふ。と。云。ま。た。地。を。此。後。遍。覧。亭。と。呼。ぶ  
べき。よ。し。作。と。あり。し。亭。あり。と。云。**開東道六町壹里**

而凡三十里四方之間六十餘州之群  
集誠日々富貴繁榮而萬歳々  
春不可有際浪依恐惶謹言

